

かねざわ 第43号

平成24(2012)年11月

- ・ 来年度の学習会予定がほぼ決まりました(P2)
- ・ 「ふれあいの道歩こう会」が 10 周年を迎え
記念のハイキングを予定しています(P18)

目次

運営委員会からのお知らせ

- 2 平成 25 (2013) 年度学習会予定
- 3 「公開歴史講座」参加募集
- 4 継続会員の手続きについて
- 5 ホームページの維持・管理にご協力をお願い

学習会

学習会の概要とアンケート結果

- 6 第 4 回学習会「鎌倉密教」
- 8 第 5 回学習会「三浦一族の興亡」
「権門」三浦義村と宝治合戦
- 9 第 6 回学習会 探訪 「三浦一族ゆかりの
地めぐり」

分科会からの便り

- 11 「懐かしの映画鑑賞録」 No.8 佐藤 晃
- 14 「浮雲俳句会」抄録 No.19 北野 清市
- 18 「ふれあいの道歩こう会」10 周年記念事業ご案内
宮原 宏至

歴史研究

- 19 六浦あちらこちら(補遺) 熊谷 哲
- 21 『吾妻鏡』を読む(6) 小倉 英明

会員からの寄稿

- 23 実家の古文書について 真田 雅行

行事予定

- 24 2012 年 12 月 ~ 2013 年 2 月の予定



金沢区生涯学習 “わ” の会

ホームページ: <http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル: yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

平成 25(2013)年度学習会予定

平成 25(2013)年度の学習会計画が、下記の表のように固まりましたので、ご報告いたします。

回	開催日	テ ー マ	講 師	会 場
1	平成 25 年 5 月 11 日 (土)	私の映画遍歴	「懐かしの映画を観る会」 代表 佐藤 晃 氏	能 見 台 地区センター
2	6 月 8 日(土)	源頼朝・政子と金沢	歴史研究家(文学博士) 盛本 昌広 氏	金 沢 地区センター
3	7 月 13 日 (土)	畠山重忠一族の悲劇	歴史研究家(文学博士) 盛本 昌広 氏	能 見 台 地区センター
4	8 月 (日未定)	[訪問講座] 金沢文庫展示関連	県立金沢文庫 学芸員	県立金沢文庫
5	9 月 14 日 (土)	瀬戸神社の神事と行事	瀬戸神社 宮司 佐野 和史 氏	金 沢 地区センター
6	10 月 11(金)	[探訪] 追浜・夏島・浦郷地区	探訪実行委員会	コース選定中
7	11 月 9 日 (土)	金沢区に残る古文書から(仮)	横浜開港資料館 副館長 西川 武臣 氏	能 見 台 地区センター
公開 講座	平成 26 年 2 月 8 日(土)	東京湾をめぐる小田原北条氏 と房総勢力 金沢・三浦地域を中心に	青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏	能 見 台 地区センター

5月：会報「かねざわ」で連載執筆されている、皆さまご存知の「懐かしの映画を観る会」代表の佐藤氏による、本会はじめての講演です。ご自身の映画遍歴を中心にして、映画に関する興味深いお話が聴けることでしょう。

6月：今年は「三浦一族」でしたが、来年は、「鎌倉幕府成立」から「北条氏体制の確立」あたりの時代に入ります。金沢は頼朝や政子とのかかわりの深い地です。その関係を、瀬

戸神社に残る文書等を通して、盛本氏が歯切れのいい講義をいたします。

7月：盛本氏による6月の続きです。畠山重忠は、鎌倉武士の典型のような男だったといわれています。人望高き重忠が、なぜ陰謀にはまったか、などを金沢に残る伝説の場所などと絡め、説明します。

8月：恒例の県立金沢文庫での展示に合わせた講演です。来年の夏の展示は何か。いまか

ら興味津々です。詳細は来年4月以降になります。

9月：瀬戸神社の佐野宮司によって、瀬戸神社の一年をたどります。天王祭、琵琶島神社神幸祭や茅の輪神事などの行事を解説します。6月の学習会内容ともリンクするでしょう。瀬戸神社がもっと身近に感じられようになると思います。

10月：富岡にあった「浜空神社」を合祀した「雷神社」、玉縄衆・朝倉氏の陣屋が傍にあったといわれる「良心寺」、追浜海軍航空隊跡や「海洋開発研究機構」見学、夏島貝塚などが候補地となっています。

11月：例年、大好評を受けている横浜開港資料館の西川氏の講演です。副館長になられて仕事が忙しく、まだ内容の詳細にまでいたっておりません。いま、金沢に残る古文書調べの最中です。たぶん、経済的な観点から江戸後期の金沢を浮き上がらせてくれることでしょう。

2月公開講座：今年の7月と9月の2回にわけて「三浦一族の興亡」を講演、その新鮮でわかりやすい説明に喝采を浴びた真鍋氏に、小田原北条氏と金沢の関係を、房総・里見氏などを交えて解き明かしてもらいます。真鍋氏は小田原北条氏が専門分野とのことです。

「公開歴史講座」参加募集

本年度の「公開歴史講座」は次のように予定しております。講師は横浜市歴史博物館の齊藤 司 氏、テーマは「江戸初期の金沢地区

の支配者」です。多くの会員のご聴講をお願い申し上げます。

実施・募集要項

日 時：平成25年2月16日(土) 9:30~12:00
会 場：能見台地区センター
テ マ：「江戸初期の金沢地区の支配者」
講 師：横浜市歴史博物館 主任学芸員 齊藤 司 氏
参 加 者：“わ”の会会員、市民
会 費：“わ”の会会員 300円、市民 500円
受付・締切：会員の優先受付は11月10日から12月14日まで
(その後、市民の募集を開始し、会員優先はなくなり、市民と合わせて先着順となります)
申 込： 11月の学習会での申込
その後は、電話またはメールで
電 話 045-512-5164 (運営委員・清水)
メー ル yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

継続会員の手続きについて

平成25(2013)年度へ継続会員の手續につきましては、10月12日の第6回学習会(探訪)にて案内ビラを配布し、当日から申込みの受付を開始しております。また、11月10日の第7回学習会でも再度ご案内を行い、会場での受付を行います。

その後の受付は下記の要領で行います。

継続を希望され、まだ手続きを済まされていない方はお忘れなき様にお願い致します。期限が過ぎますと欠員分について市民からの新規会員の募集を行います。

継続会員申込み要領 (11月の学習会以後の場合)

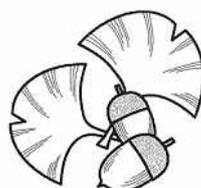
締 切：11月30日

会 費：3000円

振込口座：横浜銀行 金沢支店(店番号351) 普通預金 口座番号 1324219

名義人 金沢区生涯学習“わ”の会 代表 小俣 悦男(オマタ エツオ)

*勝手ながら、会費振込みを以って申込を頂いたものとさせていただきます。



ホームページの維持・管理にご協力をお願い

ホームページは我々が現役の時代に芽生え、急速に発展・普及してきました。ホームページの原理は芽生えたときから一貫しており、基本には変化はありません。しかし、見栄えや機能を高める技術が次々と生まれ、現在も発展途上です。企業などのホームページは最先端の技術に習熟し、美的センスを持った専門家(WEBデザイナー)が作成しています。

“わ”の会のホームページは素朴です。生き続けるには素朴であることが必須であると考えています。なぜなら、ホームページは立ち上げたら終わりではありません。新しい情報に更新や追加をし続けねばなりません。“わ”の会には専門家に立ち上げやその後の情報の更新や追加の作業(ワードやエクセルなどで作成された文書情報やデジカメで撮影された写真情報をホームページ用に変換し、サーバーに登録する作業で、狭い意味での「ホームページの維持・管理」)を依頼し続ける資金力はありません。“わ”の会会員にある程度の専門家がいる場合は、立ち上げを外部の専門家に依頼し、その後のホームページの維持・管理はその会員が担当する、あるいは、その会員が持てる技術を駆使してホームページを立ち上げ、その後の維持・管理も担当することはできます。しかし、その会員がいなくなれば、前任者以上の専門家の会員が引き継がないかぎり、以後の維持・管理ができなくなります。もうひとつ、専用ソフト利用の問題があります。簡単にホームページの立ち上げ・維持・管理ができることをうたい文句にした専用ソフトがいくつか出回っています。簡単なホームページでは十分ですが、少し複雑になってくると返って邪魔になるよ

うな気がします。したがって、“わ”の会のホームページは最低限の技術と意欲があれば、高価な専用ソフトを追加することなく、会員の皆様がお持ちのパソコンで維持・管理ができる素朴なホームページでなければなりません。“わ”の会のホームページはそのようなホームページです。

「寺社を巡る会」と「ふれあいの道歩こう会」の記録写真集についてはサーバーへの登録作業までそれぞれの分科会で担当していただいています。その他の部分はホームページ委員会が担当しており、掲載情報のあり方の検討、掲載情報の収集、掲載結果の正誤チェックはホームページ委員会のメンバー全員で実施しています。しかし、ワードやエクセルなどで作成された文書情報やデジカメで撮影した写真情報をホームページ用に変換し、サーバーに登録する作業はホームページ開設以来、特定の1人の委員が担当しています。すなわち、狭い意味での「ホームページの維持・管理」は1人で実施しています。この状況は“わ”の会ホームページの継続にとって大きなリスクです。

ホームページを持ち、その維持・管理に長けたあなた、自分のホームページを持ちたいあなた、ホームページの作り方を知りたいあなた、実在し、生きている“わ”の会ホームページの維持・管理に協力を頂くことであなたの意思・意欲を具体化し、“わ”の会ホームページの継続にご協力頂けませんか。お問合せ・ご協力を頂ける会員は下記にメールをお願い致します。

“わ”の会メール

yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

学習会の概要とアンケート結果

第4回学習会 「鎌倉密教」

開催日：平成24年8月4日(土)

会 場：県立金沢文庫 大会議室

講 師：県立金沢文庫 主任学芸員 永井 晋 氏

出 席：84名(内ビジター4名) 会員出席率：66.1%

概要

鎌倉の仏教で連想するのは禅宗とか日蓮宗などであるが、鎌倉時代に武家の都・鎌倉で繁栄したのは密教であった。日本の仏教には江戸幕府による寺の再編成即ち一宗一派と明治の神仏分離令という2回の激変があった。江戸以前の僧は自分が所属する寺の宗派を名乗るが天台宗の僧が真言密教や宋の禅など宗派を超えて学ぶことは普通であった。それより前、室町時代に鎌倉公方 足利成氏が下総・古河に移り(享徳の乱)古河公方と称した時、鎌倉の有力な寺の僧も従って行ってしまい、空いた寺に現在の鎌倉の寺が造られている。釜利谷の禅林寺もその一つで、室町時代の創建になっているがそれより古い遺物が残っていたり、下総の東昌寺との往来の記録が寺史にある(筆者註：例えば東昌寺の能山聚芸を開山に迎えている・・・かねさわの歴史事典)。これら大きな変革を考えないと当時の鎌倉は理解できない。

鎌倉の寺は源頼朝が幕府を開く前は単なる田舎寺であった。頼朝は政権運営にあたり將軍家や幕府から公式行事として依頼する神事・祈祷・修法を行う権門寺社が必要であった。しかし当時京から鎌倉へ下る高僧は居なかったので、従兄弟の円暁を鶴岡八幡宮の社務(別当)として園城寺から招いた。寺門の僧の他に人材確

保のため朝廷への祈祷の方法を経験している平家方の生き残り僧も招いている。鶴岡八幡宮は円暁の属する園城寺が主流で台蜜寺門流の作法による武家鎮護の修法が行えるようになった(筆者註：天台宗は延暦寺を本山とする「山門」と園城寺(三井寺)を本山とする「寺門」に分かれていた。天台宗の密教を「台蜜」、真言宗(東寺)の密教を「東蜜」という)。

鶴岡八幡宮は源氏の氏神である八幡神を祀る神社であると同時に鎌倉を守護する寺社の頂点に立つ存在となった。石段の上が上宮で神事を取り行う神域、下が下宮(若宮)で鶴岡社務が取り仕切る仏教色の強い空間である。

治承寿永の乱以後、他の宗派の進出が顕著となる。山門は日光山鎌倉別院を建て進出するが平氏支持だったためか鶴岡社務には着けなかった。出遅れた真言宗は八幡宮の供僧職を多く獲得、頼朝が義朝供養のため建てた勝長寿院(鶴岡八幡宮に次ぐ第二の権門寺院)の別当などになっている。

この頃新仏教の問題も多々ある。天台宗と真言宗の教えを併せた浄土信仰である浄土教(天台宗公認)とは別に法然・親鸞等が唱えた「念仏を唱えれば身分の差なく成仏できる」という浄土宗・浄土真宗は、上品上生から下品下生の9

つの身分差を否定する、さらには神・皇室を敬わないということで延暦寺から訴えられたり、迫害を受けたりして天台宗から独立をせざるを得なくなった。日蓮宗や時宗等も同様に既存の宗派から独立している。禅宗は当初は天台・真言・禅3宗兼学で実朝や北条政子などの帰依を受け建仁寺や寿福寺など建立している。義経は平氏を倒したが、天皇を殺し三種の神器を失うという大失態を犯した。天皇が倒れたことが仏教改革に拍車をかける一つの要因になっている。

実朝が頼家の子で鶴岡社務の公暁に殺害された事件は多くの影響を及ぼした。後鳥羽上皇の甲問勅使派遣に対し幕府は荘園問題で良い返事をせず、承久の乱の元ともなった。勝った幕府側の政権が安定し、鎌倉の地位が向上した。寺門の慶幸が社務を継ぐが、後始末の激務ですぐに亡くなる。後任には真言密教広沢流で勝長寿院別当の定豪が就任、勝長寿院別当には京都から山門の僧が着任、鎌倉密教の勢力図が大きく変わった。将軍が4代目から源家ではなく摂関家や親王となる。4代将軍は九条家の頼経となり、北条の執権政治が確立する。九条家から見れば鎌倉に分家が出来たようなもので、人材(僧、学者)を積極的に鎌倉に派遣し、鎌倉の諸形態を京並みに改めると同時に京・鎌

倉双方のトップを占めるようになる。また将軍家や北条氏の縁者の僧を育て鎌倉で活動させた。北条氏による寺院の創建も増え始め、鎌倉で得た地位が上洛して京都での出世の手段ともなってきた。

鎌倉時代後期になると将軍家・北条氏の一門が鶴岡社務や有力権門の別当を務め鎌倉密教の主役となっている。一方園城寺戒壇問題など狭み宗派は寺門から真言密教広沢流さらに山門、真言密教小野流と目まぐるしく変わっている。室町時代にはいっても京・鎌倉の宗教世界は政治勢力と密接に結びつき、足利成氏が下総の国・古河に移ったことで鎌倉は武家政治の都でなくなり、鎌倉で活動していた僧も古河に移動した。その跡に禅宗、浄土宗、日蓮宗などの宗派の寺が入った。中世と近世の間には大きな断絶がある。鎌倉の権門寺院は鶴岡八幡宮、勝長寿院、永福寺、五大堂(明王院)、(右大将家)法華堂、大慈寺、久遠寿量院であるが現在残っているのは鶴岡八幡宮を除くと五大堂(明王院)だけである。称名寺は武家鎮護の寺ではないが、作法は伝わっている。

永井先生のゆっくり丁寧な説明にも拘らず難解なテーマであり、筆者の理解が不十分で誤解している所もあると思いますがご容赦頂きたい。(相川 勲 記)

アンケート結果

全体評価

大変良かった：8、良かった：13、普通：9、つまらなかった：1

良かったこと

- ・鎌倉宗教(密教)の成り立ち、難解ながら興味深く拝聴した(13)
- ・興味あるテーマであったが知識が乏しいので難しかった(7)
- ・鶴岡八幡を理解する発端を得た(4)
- ・興味ある分野であったので大変参考になった(3)

もっとも印象深かったこと

- ・朝廷・宗派・武家の政権抗争と相克の重層性(4)
- ・古河公方と鎌倉幕府との関係(4)
- ・京都仏教と鎌倉仏教のつながりを理解した(3)
- ・鎌倉に園城寺派寺院が沢山あったこと(3)

永井 晋 氏



第5回学習会「三浦一族の興亡」 「権門」三浦義村と宝治合戦

開催日 : 平成 24 年 9 月 8 日 (土)
場 所 : 金沢地区センター
講 師 : 青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏
出 席 : 95 名 (内ビジター 2 名) 会員出席率 : 76.8%

概要

7月に開催された「三浦一族の興亡」“その誕生から鎌倉幕府成立まで”に引き続き、今回はその2回目として“「権門」三浦義村と宝治合戦”をサブテーマに関東はおろか、京都政界にも大きな影響を保持した三浦義村を中心に解説して頂いた。

北条氏は頼朝生存中三浦一族の陰でいわば“冷や飯食い”の状態であった。しかし頼朝死後和田合戦で和田義盛に勝利して山内荘や六浦荘を手に入れ大きな地位を獲得した。この時三浦義村は北条義時に協力し連携することにより三浦氏の地位を高め強化してゆく道を選択した。建保6年(1218)北条泰時が侍所別当に就任すると、義村は侍所のNo2である所司となった。

承久元年(1219)正月、将軍源実朝が武士としては初めての右大臣昇任を受け鶴岡八幡宮に拝賀した折に公暁に暗殺されるという事件が起こった。これを永井路子氏は三浦義村を事件の黒幕説をとっているが、事件前とそれ以後の三浦氏・北条氏の連携関係を考えると無理があるというのが講師の考え。

承久元年(1219)11月には、それまで北条氏以外の御家人としては初めて相模守に補任される。

承久3年(1221)5月後鳥羽上皇が北条義時追討の宣旨を発布されたが、三浦義村は幕府方の大将のひとりとして従軍し、幕府方が圧勝し京都を占領した。この京都での戦後処理では北条泰時の後見人として三浦義村が事実上の幕府側の代表者を務めた。この時、後鳥羽院領を後

高倉院に返付する際の使いを務めたり、後堀河天皇即位に深く関与したりしていたことから三浦義村の存在の大きさが伺え知れる。この承久の乱後、河内・紀伊の守護職を得、嫡子泰村は院御厩別当職案主職を獲得し三浦氏の存在が更に大きなものになった。又北条氏との婚姻関係を進め、連携は更に強固なものとなっていた。

元仁元年(1224)6月、北条義時が急死し、いわゆる伊賀氏事件が発生した。通説では、北条泰時の後妻伊賀氏が兄の伊賀光宗と図って、義時の嫡子泰時でなく実子の政村を執権とし、女婿の藤原実雅を将軍に擁立すべく陰謀を企て、その実現を政村の烏帽子親三浦義村に託したとされる。しかし当時の家族制度から考えると『後家』の権限は大きく伊賀氏が政村を執権にしようとしたことは不思議ではなかった。この時、義村が政村を守り抜き伊賀氏討伐という武力衝突を抑止したことから考え三浦義村の存在の大きさをうかがわせる事件であった。

嘉禄元年(1225)に北条政子・大江広元が相次いで死去した。同年、執権・北条泰時のもとで、合議制の政治を行うための評定衆が設置され、義村は宿老としてこれに就任した。三浦氏の官位がさらに上がり所領は大きく拡大し北は青森から南は福岡まで守護職などの知行地が広がった。また水上交通の掌握により中国大陸とのかわりもあつた。横須賀市大矢部の清雲寺の滝見観音菩薩像は南宋時代に中国江南地方で制作されたものと言われておりこの頃輸入されたものであろう。

この頃京都政界との関わりもさらに密接に

なり単に有力御家人の範疇をこえる存在となり「権門」とする見解もある。

三浦義村が延応元年(1239)12月に没した後、三浦氏と北条氏との姻戚関係が徐々に希薄になり、代わって安達氏が北条氏の外戚として伸

長してきた。

(三浦本宗家が滅亡した宝治合戦までの話は時間切れのため終了) (吉田寿紀 記)

アンケート結果

全体評価

大変良かった：39、良かった：6、普通：2、つまらなかった：0

良かったこと

- ・文献、史料にもとづいた説明、かつ時折ユーモアも交えられ、聴き応えがあった(19)
- ・幕府における三浦義村の立場が理解できた(4)
- ・承久の乱の裏話が面白かった(2)

最も印象深かったこと

- ・三浦義村の偉大さと承久の乱(8)
- ・研究者として通説と異なる解釈を述べられたこと(6)
- ・三浦氏と北条氏との関係(5)
- ・「後家」に後見役としての権限があったこと(2)



真鍋 淳哉 氏

第6回学習会 探訪「三浦一族ゆかりの地めぐり」

開催日：平成24年10月12日(金)

集合：衣笠住吉公園

ガイド：横須賀市観光ボランティアガイドの会

コース：衣笠住吉公園 追手口 咳地藏 旗立て岩 瀧不動 大善寺 衣笠城址 慈眼寺跡 満昌寺 近殿神社 薬王寺跡 駒繫石 清雲寺 昼食(横須賀市営公園墓地休憩所) 腹切松公園 満願寺(解散) 岩戸バス停

出席：62名(内ビジター2名) 会員出席率 49.5%

今年の探訪は7月、9月の学習会テーマ「三浦一族の興亡」に沿っての一族ゆかりの地めぐりを企画しました。加えて地元のガイドの会へガイドを依頼、きめ細かな説明・案内を意図しました。当日は爽やかな秋晴れ(気温24℃)で絶好の探訪日和でした。参加者は会員60名、ビジター2名の計62名でした。参加者10名にガイド1名と言う班編成で最初の班のスター

トを9時50分位と考えていました。ところが皆様の集まりが速やかで先頭班出発が9時30分、10時迄に5班がスタートする展開となりました。最終7班は横須賀中央駅とバス停での案内に立った委員の到着を待ち10時30分の出発でした。6班、7班は夫々6名、5名と少人数でしたので、差を詰めようと、比較的早足で先行班を追いかけました。

最初の追手口では寄せ手の攻め口の話。咳地



衣笠城追手門跡にてガイドの説明

蔵、旗立て岩の由来等を聞きながら、大善寺、衣笠城址へと歩を進めました。ここが今回の一番の難所と言える急で狭い坂道でした。ここで

賢明と言いますか、折角の機会を勿体ないと言いますか、登るのを断念した方が数名居られた様です。衣笠城を表す言葉として『六口・七柵・十二谷戸』と言われますが、攻めにくく、守りに強い城（城塞）をイメージ出来たのではと思います。

満昌寺では国の重文の義明坐像が世界遺産登録推進のため鎌倉国宝館に出張展示されていて、実物が見られずパネル展示となっていました。残念でしたが珍しい双式板碑（市重文）等を拝見出来ました。近殿神社

（祭神：義村）では、城の近くだったからか、あるいは、義村公の呼び名が「ちかどの」だったからかであろうと名前の由来の説明が有りました。

アンケート結果

全体評価

大変良かった：15、良かった：7、普通：1、つまらなかった：0

薬王寺跡、駒繫石、清雲寺（3代の墓）と進み、昼食場所の横須賀市営公園墓地へと到着しました。公園墓地は広く、きれいに整備されていて、和室の休憩所も確保しましたので、ゆっくりと食事が出来たのではと考えています。昼食を取り、元気を回復？し午後の腹切松公園、満願寺へと進みました。満願寺の仏像2体は国の重文ですが、流石に素晴らしい像で一見の価値有でした。一説では運慶作とも、その弟子作とも言われているそうです。ここで本日の探訪は終了です。

小俣代表より班毎にお礼の挨拶が有り、解散となりました。最終7班の解散は14時50分とほぼ予定通りでした。歩いた距離は1万2千歩を超え、約8kmでした。全員無事終着地まで辿

り着き、解散となり、探訪委員会としてホッとした瞬間です。今回は運営委員会イコール探訪実行委員会として内田新二委員長を先頭に推進して来ました。

参加頂いた皆様にはきつく狭い山道も有りまた1万歩を超える道のりを無事フィニッシュ出来ました事、改めてお礼申し上げます。委員の皆様も下見、本番とお疲れ様でした。また横須賀市観光ボランティアガイドの会の熱心な説明・案内にもお礼申し上げます。



満願寺 国重文 地藏菩薩

終わってみますと反省点、色々思い浮かびます。反省点を整理し、今後の企画・運営に繋がって行きたいと考えています。今後とも宜しくお願いします。有難う御座いました。（内田孝知記）

良かったこと

- ・ガイドの説明が上手で大変参考になりかつ、楽しかった(9)
- ・学習会(真鍋先生)内容を反芻することで理解が進んだ(4)
- ・探訪先の選定が良い(3)
- ・学習会を踏まえての探訪は効果的であった(3)
- ・今まで何度かガイドの説明を聞いたが新鮮な気持ちで改めて聴けた(2)

最も印象深かったこと

- ・満願寺の仏像素晴らしくかつ、迫力があつた(8)
- ・遺跡が思いのほか多かつた(2)
- ・三浦一族の文化に独自性があつた(2)
- ・念願の衣笠城址を訪ねられたことに感激(2)
- ・三浦一族のゆかりの寺が多いことに驚き(1)
- ・歩き過ぎ(1)

分科会からの便り

「懐かしの映画」鑑賞録 No.8

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 24 年度 第 10 回 鑑賞会

イングリッシュ・ペイシエント

<鑑賞日：2012・8・27>

制 作：1996 年 アメリカ

監 督：アンソニー・ミンゲラ

原 作：マイケル・オンダーチェ「イギリス人の患者」

出 演：レイフ・ファインズ、クリスティン・スコット・トーマス
ジュリエット・ピノシュ、ウイレム・デフォー、コリン・ファース

その他：第 69 回アカデミー賞

作品、監督、助演女優（J・ピノシュ）編集、撮影、音楽
衣装デザイン、音響賞受賞

あらすじ

1944 年、イタリア。砂漠で飛行中、撃墜され、大火傷を負った身元不明の男が野戦病院に運ばれてくる。身元分からない患者はイングリ

ッシュ・ペイシエント（イギリス人患者）と呼ばれた。戦争で愛する人を相次いで失い、絶望の淵にいる看護婦のハナ（J・ピノシュ）は男

を看護しようと戦線を離れ、爆撃で廃墟と化した修道院に患者を運び入れ、献身的な看護を続ける。

男は断片的に甦る記憶をハナに語って聞かせる。男の名はアルマシー（R・ファインズ）といいハンガリーの伯爵の家柄に生まれた。冒険家で、英国地理学協会に加わり、アフリカのサハラ砂漠で地図作りに没頭していた。38年、協会のスポンサーとして夫ジェフリー（C・フ

ァース）と共に参加していたキャサリン（K・S・トーマス）は、ジェフリーがカイロの英国情報部に戻った後も砂漠に居残った。アルマシーはたちまち彼女に心奪われる。猛烈な砂嵐で車に閉じ込められた二人は、一夜過ごし、心が通い合った。カイロに戻った二人は、アルマシーの部屋で結ばれる。人目をしのいで逢う二人に気づいたジェフリーは復讐を決意する……

解 説

イギリスのブッカ 賞を受賞したマイケル・オンダーチェの「イギリス人の患者」の映画化。原作に魅了されたアンソニー・ミンゲラが3年の歳月をかけて作った。1944年、第二次大戦の末期。アフリカとヨーロッパ大陸を舞台に繰り広げられるロマンスを描く大叙事詩である。記憶を失い、ベッドに横たわるアルマシーが断片的に思い出す軸と、アルマシーを看護するハナとインド人のイギリス軍中尉キップとの現在の恋を交錯させながら映画は進行する。ミンゲラ監督は「劇的であること」を主眼に自らシナリオに手を染め、その巧みな劇作術は原作者をして「全く予期していなかった素晴らしい贈り物」と絶賛する出来栄の映画とな

った。

この映画には、二組の男女のロマンス、砂漠を巡る諜報戦、裏切られた男の復讐など様々な人間関係が交わり、一見難解に見える映画だが、そこで繰り広げられるアルマシーとキャサリンのロマンスは、往年のハリウッド映画を彷彿させ大メロドラマである。

この映画のカメラワークが素晴らしい。冒頭の双葉機から俯瞰で見る北アフリカの砂漠は太陽の光にあてられ幻想的であり、なだらかな砂丘の曲線は官能的である。

撮影賞を加えて、この映画はアカデミー賞を8部門で受賞している。

平成24年度 第12回 鑑賞会

灰とダイヤモンド

<鑑賞日：2012・9・24>

制作：1958年 ポーランド

原作・脚本：イエジー・アンジェイフ・スキー、アンジェイ・ワイダ

監督：アンジェイ・ワイダ

出演：ズビグニエフ・チブルスキー、エヴァ・グジジェフスカ

あらすじ

ドイツが降伏したのち、ポーランドはソヴェート支援のもとに新政府が作られたが、それを

反対する勢力も存在した。それはロンドンに亡命政権を持つロンドン派である。新政府転覆を

目ざす彼らは、テロをもって対抗した。この映画の主人公マチェクもそのテロリストの一人である。

1945年、ポーランドの郊外に広がる田園地帯にある小さな教会の前の道路に、オートバイが走ってくる。待ち伏せしていたマチェク（S・チプルスキー）は合図の口笛で、銃を構え乱射する。二人の男が死ぬ。合図したアンジェイが駆け寄り死体を調べる。どうやら人違いのようだ。二人の殺人者は去る。マチェクはソヴェートから帰国した地区委員長のシュツーカーを狙ったのである。二人の殺人者は近くの町のホ

テルに宿泊する。そこで殺し損ねたシュツーカーを見かける。マチェクはシュツーカーの隣の部屋をとり、動向をうかがう。その夜、ホテルでは新政府樹立の祝賀会が開かれ、シュツーカーも出席した。マチェクはホテルのバーで給仕娘のクリスティーナ（E・グジジェフスカ）と親しくなり、緊張した日々なかで、一時の安らぎを覚える。若くして、対独レジスタンスに参加し、1944年のワルシャワの一斉蜂起に加わり、辛うじて生き残ったマチェクは、祖国とは、テロとは、戦いとは、愛とはと考え、心が乱れるのだった・・・

解 説

ポーランドの解放運動に命をかけた青年が、ソ連と西側陣営の対立から暗殺者になり、ゴミ捨て場で無残に死んでいくこの映画は、公開当時、60年安保闘争で揺れ動く日本の若者に強い衝撃を与えた。監督のアンジェ・ワイダはマチェクと同じように10代で対独抵抗運動に参加した経緯をもつ。その体験を『世代』（1954）『地下水道』（1956）で描き、『灰とダイヤモンド』を加えて抵抗3部作を作った。ワイダは一貫して祖国ポーランドの苦悩を描いた。その中でソヴェートの傀儡化した政権への批判を続け、それは1989年の「ポーランド共和国」の成立まで続いた。

ワイダはこの映画で、祖国の苦悩をマチェクに託して描いた。テロリストとなったマチェクは心の葛藤を抱きながら、死んでいくラストシーンは強烈な印象を残す。マチェクの生きざまを突き放すように描きながら、ワイダは彼の中に「燃えつきた灰の中に横たわるダイヤモンド」を見出だしたのだと思う。白い布を鮮血で染め、布の間を駆け抜け、よるめきながらゴミ捨て場で死ぬラストシーンは映画史上の名シーンの一つとして語り継がれている。マチェクを演じた、S・チプルスキーは東欧のジェームス・ディーンと言われたが、9年後、鉄道事故で死亡した。



「浮雲俳句会」抄録 No.19

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

【山岳俳句】

本年度の浮雲俳句会の兼題の一つは、「山岳俳句」として、これにアタックする。

山岳は、近周りの関東甲信越と東北に限定した。ご当地神奈川3（箱根・丹沢・円海山）、近県3（筑波・富士・三原山）、北アルプス2（白馬・穂高連峰）それにF u k u s h i m aの応援として中通りの安達太良と会津方部の磐梯山のトータル、10の山岳にトライする。更に具体的には、7月（箱根山）・8月（筑波山）・9月（白馬岳）・11月（円海山）・12月（安達太良山）・1月（富士山）・2月（穂高連峰）・3月（丹沢山地）・4月（磐梯山）それにフィナーレとして5月（三原山）に挑戦する計画だ。

そこで、先達の「山岳俳句」を若干みておきたい。

涼しさやほの三日月の羽黒山 芭蕉 雲の峰幾つ崩れて月の山 芭蕉

松尾芭蕉は、元禄2年「おくのほそ道」の途次、出羽三山に登り、前掲の句を残している。

雲呑んで花を吐くなる吉野山 蕪村 行春やむらさきさむる筑波山 蕪村

芭蕉の句が哲学的であるのに対し、与謝蕪村の句は、絵画的な特徴がある。

遠山に日の当たりたる枯野かな 虚子 山国の蝶を荒しと思はずや 虚子

高浜虚子の「山岳俳句」は多くない。しかし、1句目のように代表作の一つに数えられる名句もある。

霜つよし蓮華とひらく八ヶ嶽 普羅 乗鞍のかなた春星かぎりなし 普羅

山岳を俳句の題材として意欲的に取り組み、本格的な「山岳俳句」を残したのが、前田普羅（ふら；1884～1954）である。

朝焼の雲海尾根に溢れ落つ 辰之助

水原秋櫻子の弟子である石橋辰之助（1909～1948）は、積極的に登山に挑み、清新な「山岳俳句」を作っている。夜明けの尾根に立ち、足元の雲海を見下ろした臨場感溢れる句である。

秋風やいただき割れし燧岳 蓼汀 わが胸をふたつに断ちて華巖落つ 蓼汀

福田蓼汀（りょうてい；1905～1988）は、「山岳俳句」を生涯のテーマとして、日本各地の山々を踏破。山岳俳人としての名を高めた。

〔 秀作 〕

天賞 陽灼けせし白衣観音をんな顔 一馬

路傍の 白衣観音 の即物写生句。道端の 陽灼け した 白衣観音 。その観音様は、をんな顔 をしていたとリアルに描写している。

選者は、直ちにNHKの朝ドラ「梅ちゃん先生」を連想した。それは戦後、焼け野が原と化した東京・蒲田を舞台に、町の人々の命を守る医者になった一人の女性の成長記。とりわけ、地域医療に生きようとするヒロインのひたむきな姿は、まさに地域を守る路傍の観音様を生き写しにしたようだ。

ところで、われわれの近くに出てくる仏様には、毘沙門さま、聖天さま、お不動さまなど多くの仏様がおられます。しかしその中でも、観音さまが一番たくさんおられ、西国三十三カ所など、沢山観音霊場もあって、一番身近で親しみがある仏様だ。

この点、NHKの朝ドラの「梅ちゃん先生」は、蒲田という地域に根差し、たびたびの往診により、陽灼けせし 白衣観音 。しかも、をんな顔 女性町医者として、観音さまと同じように、人々の命を守ってきた。

地賞 山開き金時山へ富士を見に 一幸

兼題「山岳俳句」のトップを飾って、近周り“箱根山”に挑戦。その佳吟第1号。

“箱根山”という固有名詞はなく、これは箱根カルデラ一帯のトータルの呼称。実際の“箱根山”は、外輪山と内輪山に大別できるいわゆる箱根山系である。外輪山には、北サイドに金時山(足柄山ともいい、鉞を担いだ金太郎のお伽噺で有名)・南サイドに大観山などがある。また内輪山には、神山(箱根山系の最高峰14

38m)・箱根駒ヶ岳などがある。

掲句では、山開き の7月1日、金時山へ 富士を見に と表記しているが、富士山は、来年3月に登場する「丹沢山地」からも、よく見える。

人賞 風鈴のひと呼吸する入り日かな 十九

調べの大変よい生活俳句。先週の日曜日が24節気の大暑。夏の暑さも絶頂に達し、数日後には土用の丑の日も控えている。

このようななか、風鈴 の舌のところから短冊を吊り下げると、風で短冊が揺れ、舌を動かして、美しい音色を響かせる。その涼しげな感じが、夏の涼味でもある。特に夕暮れの涼風に鳴る風鈴は、昼の暑さを忘れさせてくれる。

風鈴は、鎌倉時代から出始めており、室町・江戸時代を経て流行した。追って、近場では、川崎大師風鈴市...日本各地の風鈴が販売され、H22年には全国47都道府県すべてから、900種類の風鈴が集まった。また浅草のほおずき市...浅草寺の7月の行事で、風鈴がほおずき市のつきものとなっている。

〔 特選 〕

初蟬に我が家の一樹明け渡し	とも女
両国の花火近づく河童の忌	勇平
帰省子のお国訛に迎へられ	重九
沖雲やそべりし土手の合歡の花	国眼
富士登山朝日に押され頂きへ	一稅
凌宵花男世帯の庭飾る	好童

〔 秀作 〕

天賞 雲傘に残暑凌ぐや筑波山 国眼

即物写生の秀作。先ず、秀作の所以を構造的に分析してみよう。5つの「俳句の型」の一つ“虚子型（名詞＋名詞＋動詞＋名詞）”である。詩の表現技法の一つである“体言止め”である。詩の表現技法の一つ「比喻法」中“隱喩法（傘と残暑）”を使っている。詩の表現技法の一つ“省略法（や切り）”を活用している。しかも、前記からをさりげなく駆使しているからだ。

次に、句のリズムが非常によい。因みに、「クモカサニザンショシノグヤツクバサン」は、なんの淀みなく、上5・中7・下5とすんなり読むことができるからだ。

一方、兼題1の筑波山は、茨城県南部に位置し、高さ877m。山頂は女体山と男体山が東西に並列。その美しい姿から富士山と対比され、「西の富士・東の筑波」といわれる百名山。ただし、百名山の中では最も低い独立峰である。

また万葉時代から有名で、神話・伝説に富む山である。特に山頂の筑波神社（山岳信仰）と、ガマの油売りの口上で知られている。

このような筑波山が、人間が暑いときに日傘を差すように、雲という傘を差して、残暑を凌いでいる。

地賞 燈火親し一の倉沢登攀史 一馬

登攀（とうはん）史の読書俳句。秋になると涼気が快く感じられて、燈火になつかしさを感じるようになる。まさに読書の秋。読書の好季節の到来だ。

この点、わが浮雲俳句会においても、「山岳俳句」にアタックしている折柄、燈火親しむ侯に、谷川岳一の倉沢の登攀史を、研究頂くことは、誠に時宜に適して嬉しい限りである。

谷川岳一の倉沢は、群馬と新潟の県境の三国山脈の主峰（1977m）である。この谷川岳一の倉沢の岩場は、日本三大岩場の一つで、昔から遭難事故の多発地帯だ。

因みに、H17年までに781名の死者...この飛び抜けた数字は、わが国のみならず世界のワースト記録としてギネスに認定（例えばヒマラヤ山脈8000m峰14座の死者の合計637名）されている程だ。特に魔の山谷川岳の中でも、一の倉沢の気象の変化は激しく、しかも、雪解けが遅く雪崩や濃霧による遭難事故が続いている。

人賞 紫の筑波嶺映ゆる稲穂かな とも女

遥かに眺めた遠望俳句。「山岳俳句」には、遥かに眺める＝遠望俳句、山の中を歩く＝山国俳句それに山を攀じ登る＝登頂俳句に大別できるが、掲句は、この中の遠望俳句である。

この遠望俳句...筑波嶺の紫と、稲穂の黄色の対比が抜群。しかも、これが関八州を睥睨する筑波を、一層際立たせている。

加えて、掲句は、高浜虚子の代表作である“虚子型”。

遠山に日の当たりたる 枯野かな
名名 動 名

から、品格の高い句に仕上がった。

〔 特選 〕

星月夜坂東無双筑波山	一幸
盆支度また煮転ばしの匂ひせり	勇平
親不孝詫びて苔生す墓掃除	重九
一杓の水の浄める盆の墓	十九
盆の月山里深く刺さるなり	一稅

〔 秀作 〕

〔天賞〕 月光の海どこまでもあやなせり 祥代

月光の海のご当地俳句。兼題の月は、花と並んで美の中心におかれ、歴史の厚味のある代表季題中の代表。この月は四季いずれにもあるが、秋を月の季節としている。月の満ち欠けによって、新月・二日月・三日月・弓張月・半月と光をえて大きくなり、やがて満月となる。

その月、しかも仲秋の名月の 月光 が、おだやかな海面に、金や銀など様々な美しい模様をつくっている。これを 月光の海 としとらえ、この世のものでないような美しさを、リズムよく、見事に表現している。

いずれにしても、俳句を志す者にとって、当該地域の花鳥諷詠を詠った俳句を作ることが、最大の目標であり、かつ、最高の喜びでもある。この点、作者は、このようなご当地俳句を、近くの東京湾の 月光 に着目。月光 が、東京湾の海一面にくりなす、美しい模様を あやなせり と詠いあげた力量は流石だ。

〔地賞〕 秋晴や白馬仰ぎて鍬を打つ 一祝

山岳の典型的な遠望俳句。白馬岳は、北アルプスの北部に位置し、後立山連峰の最高峰（2932m）。東サイドには大雪渓があり、夏スキーを楽しめる。また日本を代表する高山植物の宝庫。そのためか、最近は女性にも人気があり、白馬山荘は日本最大の1200人収容可能だ。

掲句は、二句一章の遠望俳句。よく晴れて空が澄み渡っている日、松本平では、白く輝く 白馬 を 仰ぎ つつ、農家の人が 鍬を打つ

ている。まさに一幅の名画だ。しかも、鍬を打つ という措辞によって、絵の動きとリアルな印象が伝わってくる。

〔人賞〕

十五夜に幼なともだちつどひきて 国眼

古里の追憶俳句。十五夜は、陰暦8月15日の夜の満月＝仲秋の名月。

因みに、月に関する先達の俳句と和歌をみてみると、俳句では、

名月や池をめぐりて夜もすがら 芭蕉

名月をとつてくれると泣く子かな 一茶

十五夜の雲のあそびてかぎりなし 夜半

また次のような和歌もある。

月ごとに見る月なれど この月の今宵の

月に 似る月ぞなき 天曆御歌

これらは月の美を代表する詩歌であり、秋の美の代表でもある。

ところで、掲句は、現実の仲秋の名月を見ながら、古里（鹿児島）における 幼なともだち と見た 十五夜 の追憶。生涯の良夜の思い出に耽っているのだ。

〔 特選 〕

縦走の白馬三山秋高し 一幸

銀漢の落つる白馬のカールかな 三旦

月の宴ジャズの夕べとなりけり 重九

霧かかり夢か現か花野径 とも女

平瀧の夕波渡る雁の文字 十九

秋の山百の頂取り取りに 一馬

「ふれあいの道歩こう会」10周年記念事業ご案内

「ふれあいの道歩こう会」代表 宮原 宏至

“わ”の会分科会「ふれあいの道歩こう会」は平成15年秋、会員同志のふれあい、自然とのふれあいを目指し発足、来年設立10周年を迎えることとなります。この機会に、記念事業として、『記録第3集』の発行並びに関東ふれあいの道 神奈川県9番コース秦野市の「弘法大師と桜の道」へのハイキングを行い、終了後記念パーティーを行います。多数の会員皆様方のご参加をお待ちしております。

なお、雨天の場合、ハイキングは中止し記念パーティーのみ行います。

<コース案内>

「弘法大師と桜の道」コースの弘法山公園は神奈川県立自然公園に指定されており、県有数の桜(2,000本)の名所。富士山や丹沢の眺望も良い。弘法大師が修行したとの言い伝えから、山頂には弘法大師木像を安置した大師堂(釈迦堂)がある。往きは小田急秦野駅から弘法山公園までは徒歩1時間、うち緩やかな上り坂の山道が20分。帰りは緩やかな下り、途中からはバス乗車。秦野駅の標高が約100mなので、円海山に登るとほぼ同じ程度。



弘法山公園

記念ハイキング並びにパーティー実施要領

実施日 : 2013年4月3日(水)

ハイキング 集合場所: 相鉄線 横浜駅1階改札付近・8時50分

解散場所: 相鉄線 横浜駅 15時10分

交通費: 約2,000円 <金沢文庫駅 秦野駅(片道)840円、バス代170円>

参加費: 無料 (持ち物: 昼食、飲物、敷物、雨具、保険証。履き慣れた運動靴)

パーティー 会場: 横浜駅西口周辺で調整中

時間: 15時20分(予定)

参加費: 3,000円(女性: 2,500円)

= コース距離・タイム =

<往き> 小田急秦野駅 権現山(標高243m 弘法の清水経由2.5km、約1時間)

<帰り> 権現山 バス停(弘法山経由1.5km、約40分) 小田急秦野駅(乗車時間10分)

申込み: 11月10日学習会の時にチラシ申込み書にて

又は宮原宏至 メールアドレス: miyahara164@kch.biglobe.ne.jp

電話番号: 045-783-4539

締切り: 平成25年1月31日

六浦あちらこちら(補遺)

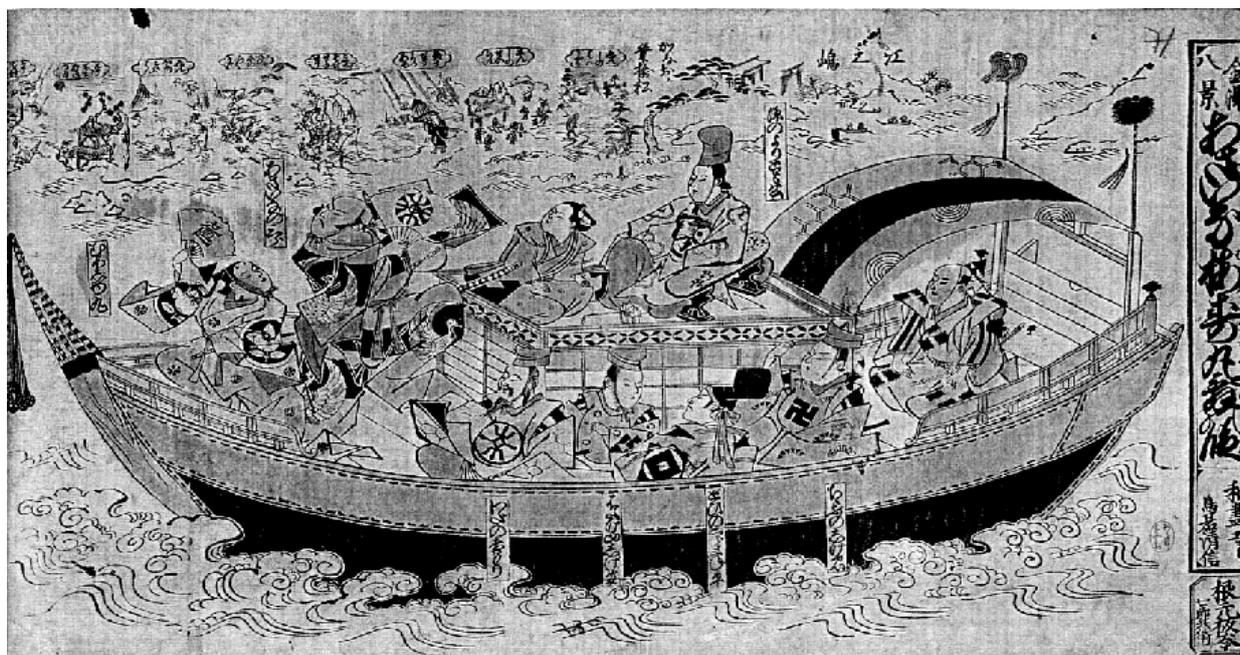
熊谷 哲

編集の都合で前号に掲載出来なかった項目を以下に記載します。

三艘文殊堂の念仏講：三艘町内会館の一画が文殊堂。文殊堂については会報第 29 号の近藤氏の記述が重要。毎月 24 日に文殊講という念仏講が行われている。十数人が輪のように座り、直径 3m 弱の大きな寺宝の数珠を繰りながら念仏を唱える。念仏講の存続は極めて貴重。

源頼朝金沢遊覧図：江戸時代に上演された芝居や土佐節などを素材にした浮世絵が 3 点伝えら

れている。頼朝が家臣を従えて御座船に乗り金沢八景を背景にして海上を遊覧する構図である。鳥居清信が宝永年間(1704～11)頃に描いた「金沢八景あさいな梅寿丸舞の段」(シカゴ美術館蔵)。近藤清春が享保年間(1716～36)頃に描いた「金沢八景頼朝遊覧図」(「浮世絵版画史画集」に収載)。沢雪嶠が幕末に描いた浮世絵「源頼朝公金沢遊覧之図」(神奈川県立歴史博物館蔵)



鳥居清信「金沢八景あさいな梅寿丸舞の段」

金沢の福太郎：『甲子夜話』正編(文政8年=1825)に絵入りで記述されている金沢の河童の説話。「享和1年(1801)金沢村の漁夫重右衛門の姉の夢枕に童子が現れ、我為に一社を建てれば水難疱瘡麻疹の守神になると告げた。家伝の水難疱瘡のまもりと書いた箱を開けたら、面は猿のようで、四肢に水かきがあり、頭には凹みがある異形のものがあった。これを福太郎と称した。河童は恩返しに福を授けるので福太郎という説の由来は金沢の河童にある」とある。漁夫や社は不明。



金沢の河童 「甲子夜話」より

横浜・横須賀への国道：国道としては明治20年(1887)制定の国道45号線が初。経過地は横浜市吉田 笹下 栗木 能見堂跡 谷津 町屋 瀬戸 西六浦交差点付近 侍従橋 三艘 瀬ヶ崎 横須賀市。大正2年(1913)経過地を屏風ヶ浦 杉田 富岡 谷津に変更。大正15年(1926)六浦橋と内川橋及びその間の埋立と道路が完成、国道は侍従橋経由が解消し西六浦交差点から瀬ヶ崎へ直結した。昭和27年(1952)国道16号線になった。

関東大震災：大正12年(1923)9月1日発生。六浦では家屋の60%弱が倒壊。農地の隆起・陥没・亀裂が発生、平潟湾の海底が1~1.5m隆起するなどのため農漁業・交通に大きな影響が出た。

牡蠣の養殖：明治初期から始まり、大正10年(1921)頃には重要な産業になっていたが、関東大震災による海底の隆起や昭和3年(1928)の外国船の重油流出で全滅した。

『吾妻鏡』を読む(6)

- 金沢北条氏のこと(続) -

小倉 英明

『吾妻鏡』のなかの金沢北条氏の続きです。

寛喜二年(一一三〇)三月二日 甲午

「晴る。駿河守(重時)六波羅に候すべきによつて 小侍所別当を辞する間、今日陸奥五郎実泰をもつてその替りとなすと云々」

(注) 小侍所別当は將軍の身の回りの世話をする役所の長官。

六波羅は六波羅探題の略。朝廷の監視及び尾張、加賀以西諸国の政治、裁判を統括するため京都六波羅に駐在した。

天福元年(一一三三)十二月廿九日 巳亥

「陸奥五郎(実泰)の子息小童十才。武州の御亭において元服す。太郎実時と号す。駿河前司のごとき座にあり。一事以上亭主の御ありてにはかにこの儀に及ぶの由仰せらると云々」

(大意) 実泰の子実時が北条泰時の邸で元服、三浦義村らが列席した。儀式はすべて泰時の指図であり自ら加冠の役も務めた。実時の元服は事前の準備もなく、泰時の一存で急ぎ催された。

(注) 注目すべきは実時の父実泰が登場していないことと、急ぎ泰時の一存で元服が行われた理由が不明なことと、一事以上とは総ての意。

天福二年(一一三四)六月廿日 丁酉

「陸奥五郎(実泰)病痾によつて小侍所別当を辞す。しかつしてこの事重職たり。子息太郎実時年少の間讓補しがたきの由、その沙汰ありといへども武州、重役といへども年少といへども扶持を加ふべきの由申し請けしめたまふによつて仰せ付けらるるところなりと云々」

(大意) 小侍所別当は重職で年少の息子実時が継ぐのは無理と周囲の者は難色を示した。泰時は実時の能力を認めており、私がサポートするからと仰せになり実時を後任に決めた。

(注) 歌人藤原定家の日記『明月記』(天福二年七月十二日条)が実泰についての風説を伝えています。

「去る六月廿六日の朝、義時朝臣の五郎男(一条実右卿と実は一腹)が誤つて腹を突き切り、幾度となく意識を失なつたとのことである。このことを狂気の自害と伝える人もいる。今も験者が祈禱を続けているとのことである」

この事件は実時が小侍所別当の職を継承する四日前のことである。また実泰は西園寺公経の子で一条実有と異父兄弟とも伝えられている。この二点とも『吾妻鏡』の伝えない情報ですが、真相は明らかではありません。(この項『北条実時』金沢文庫編より)

暦仁元年(一一三八)二月七日 癸未

「霽る。橋本駅に着御。これに先だちて、人々家々を點定する間、陸奥太郎実時主、舞沢の松原に宿す。戌の剋に及びて、京兆かの野宿の事を聞かしたまひ、仰せられて曰はく 実時は小侍別当、重職他に異なり、もつとも御所の辺に候すべきの仁なり。しかるにその所なきによつて、駅路上に止宿すてへれば予里家に暖座するの條、その恐れありと云々」

よつて陸奥太郎が野宿に到らしむるの間、宮内少輔泰氏、駿河

前司義村以下の人々、多くもつて旅宿を辞し申し、件の松原に参る。(略) 太郎主面目を施し、和州(景朝)の本所に宿すと云々」

(大意)將軍頼経上洛の行列は橋本宿に到着した。行列供奉の人々はそれぞれに宿所を見つけたが実時は宿がとれず舞沢の松原で野宿をした。

二十時の頃北条泰時は実時が野宿していると聞き「將軍のお側にいなければならぬ人に野宿させては申し訳ない」と云つて実時のもとに出かけた。その事を聞いた重臣たちは旅宿を辞退すると申し出た。実時は將軍宿所の近くの遠山大和守の宿に招かれた。

(注) 點定とは選てんていび決めること

橋本駅(宿)は現静岡岡原新居町

舞沢は現舞坂町(新居町の東隣り)

仁治二年(一一四一)十一月廿五日 戊申

「今夕、前武州(泰時)の御亭に御酒宴あり。北条親衛(経時) 陸奥掃部助(実時) 若狭前司 佐渡前司等着座す。信濃民部太夫人道 太田民部太夫等の文士数輩同じく参候す。この間御雑談に及ぶ。多くはこれ理世の事なり。」

亭主 親衛を諫められて曰はく 好文を事となし武家の政道を扶たすくべし。かつは陸奥掃部助に相談せらるべし。およそ兩人相互に水魚の思いを成さるべきの由と云々」

(大意)北条泰時の御亭で酒宴が行われた。北条経時、北条実時、三浦泰村、後藤基綱等が着座、二階堂行盛 太田康連など文官数人も参候した。泰時は孫の経時にもっと勉強して武家政治に盡力せよ。実時を相談相手として親交を深めよと諭した。

(注)文士とは事務官僚。理世とは政治のこと。

経時と実時はともに十八才で、泰時の眼には実時の好學ぶりが頼もしく映っていたのだろう。泰時は次期執権経時の側近ナンバーワンに実時を指名したもので、この酒宴に出席した者はいわば証人であった。

実時は歴代の執権経時、時頼、長時、政村、時宗のブレインとして活躍した。晩年には執権、連署に次ぐ引付一番頭人として幕府のナンバー3の座にあつた。

△北条実時略年譜▽

- 一一三四(元仁元年) 誕生、母天野政景女
- 一一三三(天福元年) 元服
- 一一四六(寛元四年) 宮騒動、北条時頼政権確立
- 一一四七(宝治元年) 宝治合戦
- 一一五三(建長五年) 評定衆に就任
- 一一五五(建長七年) 越後守に補任
- 一一五六(康元元年) 引付三番頭人に就任
- 一一六四(文永元年) 引付二番頭人に就任
- 一一七三(文永一〇年) 引付一番頭人に就任
- 一一七四(文永一一年) 文永の役
- 一一七五(建治元年) 病のため六浦に籠居
- 一一七六(建治二年) 没(五十三才)

実家の古文書について

「古文書を読む会」代表 真田雅行

平成10年以来、新潟の越後平野の実家にある古文書の調査と整理を行い、ほぼ一段落した。

所蔵文書は約440部、ほとんどが写本の冊子（綴じ本）で、約3分の1が漢文体、残りがいわゆる「お家流」の古文書である。

時代が古いものでは『日本書紀』、『万葉集』、『古今和歌集』、『貞永式目』、『神皇正統記』などあるが、圧倒的に多いのは江戸時代中期以降～明治のものである。戦国時代以前のは火災などで紛失したものとみられることと、江戸時代になると戦争がほとんど無くなり、時代の進展と共に社会や経済の動きが活発化複雑化して、文書で記録保存する必要が急速に高まったことによると考えられる。

以下に所蔵文書の特色を挙げる。

1. 村政全般

- 1) 江戸時代は米（こめ）による支配体制であるから、年貢徴収の円滑化が村政の中心となるのは当然で、検地や新田開発による増産と農民側からの各種負担軽減要請が多い。特に大風・洪水や天候不順・不作に伴う減免嘆願が多い。
- 2) 一帯の支配者は戦国時代は上杉謙信・景勝だったが、江戸時代は天領だったり譜代大名の長岡藩主牧野氏など支配者・領主の頻繁な交代が多い。特に幕末に会津藩領になったが、これは幕府が会津藩主松平容保を京都守護職に任命するための手段の一つだった色彩が濃い。
- 3) 片や駆け落ち、家出、捨て子、出稼ぎ人の行方不明など負担増に耐え切れない下層階級事件もある。

2. 中央に関する古文

意外に多いのは江戸など中央に関する古文書である。これは地方が中央の情報に敏感で、その入手に熱心であったことのあらわれであろう。

例：

1) 『こころのしがらみ』（お定書）

犯罪や刑罰用に当たって裁く側の心得を詳細に定めたもので、三奉行（勘定奉行・町奉行・寺社奉行）以外には公表してはならないと冒頭に記されている。百力条に及ぶ。

2) 『江戸表騒動記』

譜代大名板倉家の傍流で旗本板倉修理が江戸城内で細川熊本藩主を殺害し、切腹に至った事件。板倉家本家に恨みを晴らすのが目的だったが、本家と細川家の家紋がよく似ていて、見間違っただけで細川藩主を厠で斬り付けたもの。板倉修理家はお家断絶となり、板倉一門系図からも抹消。芥川龍之介の短編小説『忠義』の台本となった。

3) 『無題名』

京都「蛤御門の変」の風聞の記録。

4) 『辻番所常変集』

江戸の武家地に治安警護を目的に設置された番人や番人が詰めた番所についての諸規定を定めたもの。

その他いろいろだが、それらの中から参考になりそうなものは適宜「古文書を読む会」での教材として採り上げる予定にしている。

以上

行事予定

2012年12月～2013年2月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月16日(土) 能見台 CC 9:30～12:00 江戸初期の金沢地区の支配者 横浜市立博物館 主任学芸員 齊藤 司 氏
寺社を巡る会	12月6日(木) 10:00 洋光台・氷取沢地区 JR 洋光台駅集合 来光寺、峰白山神社、阿弥陀 寺、護念寺、氷取沢神社、宝 勝寺	1月11日(金) 10:00 港北地区 JR 小机駅集合 雲松寺、太子堂、金剛寺、小 机城址、泉谷寺、本郷神社、 林光寺	2月7日(木) 10:00 座学 場所未定 DVD鑑賞 「五木寛之・百寺巡礼」
古文書を読む会	12月13日(水)10:00～12:00 金沢公会堂 慶珊寺文書 12月27日(水)10:00～12:00 金沢公会堂 蛤御門の変	1月10日(木)10:00～12:00 金沢公会堂 齊田家文書 1月24日(木)10:00～12:00 金沢公会堂 旅中日記	2月14日(木)10:00～12:00 金沢 CC 齊田家文書 2月26日(木)10:00～12:00 金沢公会堂 旅中日記
ふれあいの道歩こう会	12月20日(木)(雨天21日) 茨城県コース 17 水の恵みを知るみち	1月17日(木) (雨天18日) 茨城県コース 18 水の恵みと水田地帯のみち	2月21日(木) (雨天22日) 独自コース 1 埼玉県 宝登山のロウバイと福寿草
懐かしの映画を観る会	12月10日(月)12:10 金沢 CC 地上最大の作戦 (米) 12月24日(月)12:10 金沢 CC ザッツ・インザナイト (米)	1月14日(月)12:30 金沢 CC 鉄道員(ぼっぼや)(東映) 1月28日(月)12:10 金沢 CC ジャイアンツ(米)	2月11日(月)12:30 金沢 CC イースター・パレード(米) 2月25日(月)12:30 金沢 CC 冬の小鳥(韓・仏)
浮雲俳句会	12月23日(日) 9:30～ 金沢 CC 第65回例会 テーマ：安達太良山	1月27日(日) 9:30～ 金沢 CC 第66回例会 テーマ：富士山	2月24日(日) 9:30～ 金沢 CC 第67回例会 テーマ：穂高連峰
パソコンを使いこなす会	12月4日(火) 金沢 CC WORD 基礎講座 - 2013年カレンダー の作成(3) - 12月18日(火) 金沢 CC EXCEL 復習講座 - 論理関数 - 9:30～12:00	1月15日(火) 金沢 CC WORD 復習講座 - 図の挿入 - 1月29日(火) 金沢 CC WORD 復習講座 - 図の挿入 - 9:30～12:00	2月5日(火) 金沢 CC WORD 復習講座 - 書式調整 - 2月19日(火) 金沢 CC EXCEL 復習講座 - 検索関数 - 9:30～12:00

連絡先： 学習会 782-8147(小俣) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)
ふれあいの道歩こう会 783-4539(宮原) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日	平成24(2012)年11月10日
他人の主張を正しく理解することは、決して容易なことではない。その内容が専門的である場合は、なおさらのことだ。本号にも、学習会の内容紹介が掲載されている。それらのおいずれもが、小子には「固骨」すぎて消化不良を起こしたものであった。しかし、担当の編集委員子は、実に見事にあの「固骨」を料理し盛り付けし、我らの前の食卓に並べて見せてくれた。確かな腕前に深甚の敬意を表したい。(田中)	発行月	4回(2,5,8,11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	大門 利晴
	編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 金久保常二